

2020年1月22日
ワーク・ダイバーシティプロジェクト
第13回企画委員会

就労支援で 助け合える地域を作る

NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡

津 富 宏(静岡県立大学)

適切なサポートがあれば
どんな人(若者)も働けます

思いさえあれば
資格なんかありません
誰でも人を応援できます

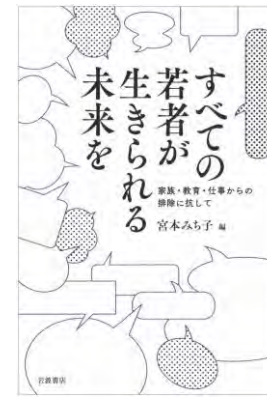
私について

生まれ	1959年	東京都
略歴	1983年	5年かかって大学卒業 法務教官(少年院の教官)となる
	2002年	法務省から静岡県立大学に移る
専門	犯罪学(原因論、非行からの離脱研究) 評価研究(犯罪者処遇の効果研究) 青少年の社会参加支援	
社会活動	特定非営利活動法人青少年就労支援ネットワーク静岡 一般社団法人静岡学習支援ネットワーク	

立ち直り



民主主義



若者支援

就労支援



評価研究

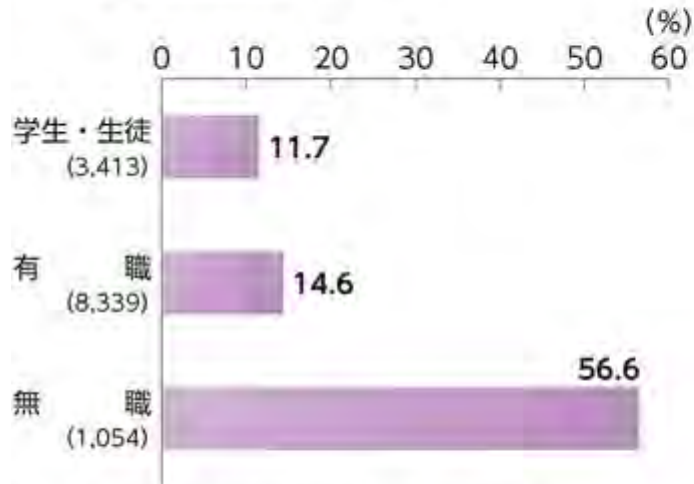
働くことで人生が変わる

5-1-5-9図

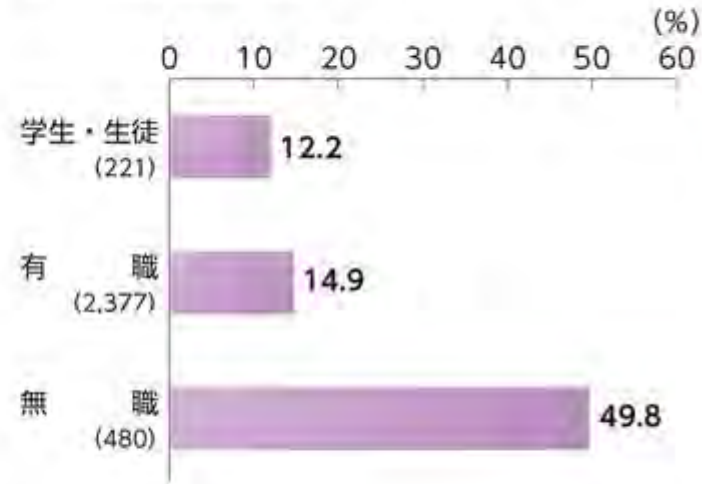
保護観察対象少年の再処分率（終了時の就学・就労状況別）

（平成27年）

① 保護観察処分少年



② 少年院仮退院者



- 注 1 法務省大臣官房司法法制部の資料による。
2 保護観察処分少年は、交通短期保護観察の対象者を除く。
3 保護観察終了時の就学・就労状況による。ただし、犯罪又は非行により身柄を拘束されたまま保護観察が終了した者については、身柄を拘束される直前の就学・就労状況による。
4 「再処分率」は、保護観察終了人員のうち、保護観察期間中に再非行・再犯により新たな保護処分又は刑事処分（施設送致申請による保護処分及び起訴猶予の処分を含む。刑事裁判については、その期間中に確定したものに限り。）を受けた者の人員の占める比率をいう。
5 家事従事者、定収入のある無職者及び不詳の者を除く。
6 () 内は、実人員である。

少年院の教官としての私の経験 働けるようになることの大切さ

- プライドが保てる
- リズムのある生活を送れる
- 一日のうちでやるべきこと、行くべき場所が決まっている
- (うまく続けば)生きがいになる
- 仕事仲間(友だち)ができる
- お金が稼げるので、生活に幅ができる
- 社会常識が身につく

「働くことは完全栄養」

このことはすべての人々に当てはまる

私の根本にある信念

働くことで人は変わる
仕事につなげ人を変えるのは
地域＝人のつながりである

働き続けることのむずかしさ

就職したあとが(も)難しい

- 若者就労支援機関対象者の調査(厚労省、2006)
 - 連続1ヶ月以上仕事をしたことがある人は79%
- その人たちは・・・
 - 一度は働いた、しかし、
 - 仕事が続かなかった、そして、
 - やめたあと、仕事を探せなかった／仕事を探そうとしたが、みつけられなかった

働きたくても働けない若者たち
若者就労支援機関対象者の調査(厚生労働省, 2006)

面接の申し込みの電話をするのが不得意	61.5%
面接で質問に答えるのが不得意	64.8%
面接に通るのが不得意	75.1%
職場で友達を作るのが不得意	64.6%
教えてもらわなくても周囲のやり方を見て仕事を覚えるのが不得意	60.2%
忙しいときに手伝ってもらうのが不得意	58.3%
知らない人に話しかけるのが不得意	59.6%
人から好感を持ってもらうのが不得意	57.4%

やめないための支え 次につなぐ支え

- 就職するための支援ではなくて、働き続けられるための支援が大切
- 人は、どうしたら働き続けられるのでしょうか。
- 同じ職場で働き続けられなくても、次の職場へとチャレンジし続けられれば大丈夫

就職ではなく、試行錯誤を支える

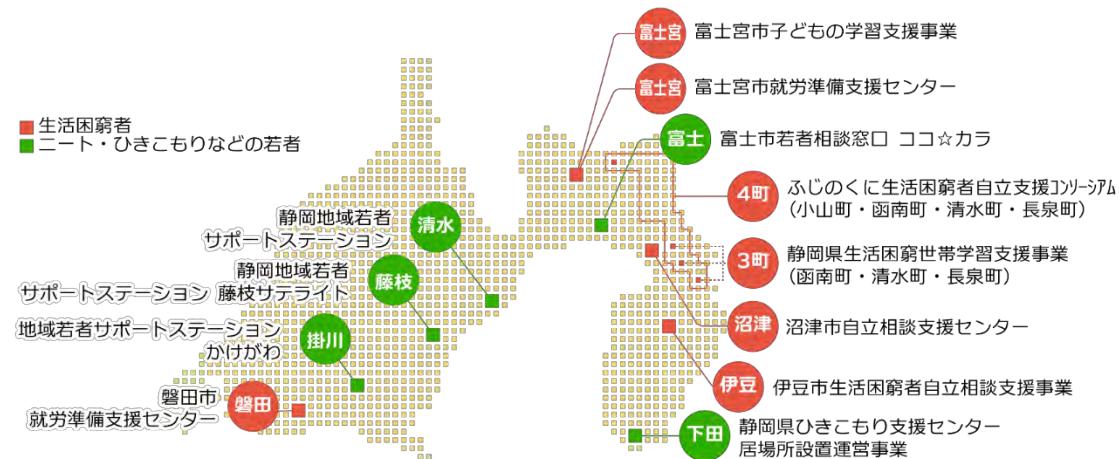
私たちのチャレンジ

ミッション

青少年就労支援ネットワーク静岡は、静岡県内の働きたいけれども働けない人びとに対して、市民のネットワークによる伴走型の就労支援を提供することを通じて、働く喜びを分かち合える、相互扶助の社会をつくることを目的とします。



	H28	H29	H30
総対象者数(就労支援・学習支援・生活困窮者自立支援・ひとり親支援など)	1255人	1178人	748人
うち 就労希望者数	869人	761人	581人
うち 就労者数	551人	393人	437人



県内に1,300人のボランティア

働けていない若者は
国の調査では同世代人口の2%程度と推計

しかし

全戸個別訪問をして全数を数えた
唯一の調査(秋田県藤里町)では10%
(定義次第では20%に達する)

有償事業ではこんなに多くの若者は支えられない

応援団がたくさん必要

静岡方式による 社会についての認識

ポランニー『大転換』のエッセンス 市場社会のいびつさ(=経済世界の突出)

埋め込まれた embedded 経済

離床した dis-embedded 経済



中山智香子先生のスライド

ポランニー

経済過程に秩序を与え、社会を統合するパターンとして、互酬、再分配、交換の3つをあげる。

ポランニー 市場（交換）の過拡大

労働、土地、貨幣は、いずれも販売の為に生産されるのではなく、これらを商品視するのは、まったくの擬制なのである。にもかかわらず、労働、土地、貨幣の市場が現実組織されるのは、この擬制のおかげなのである。

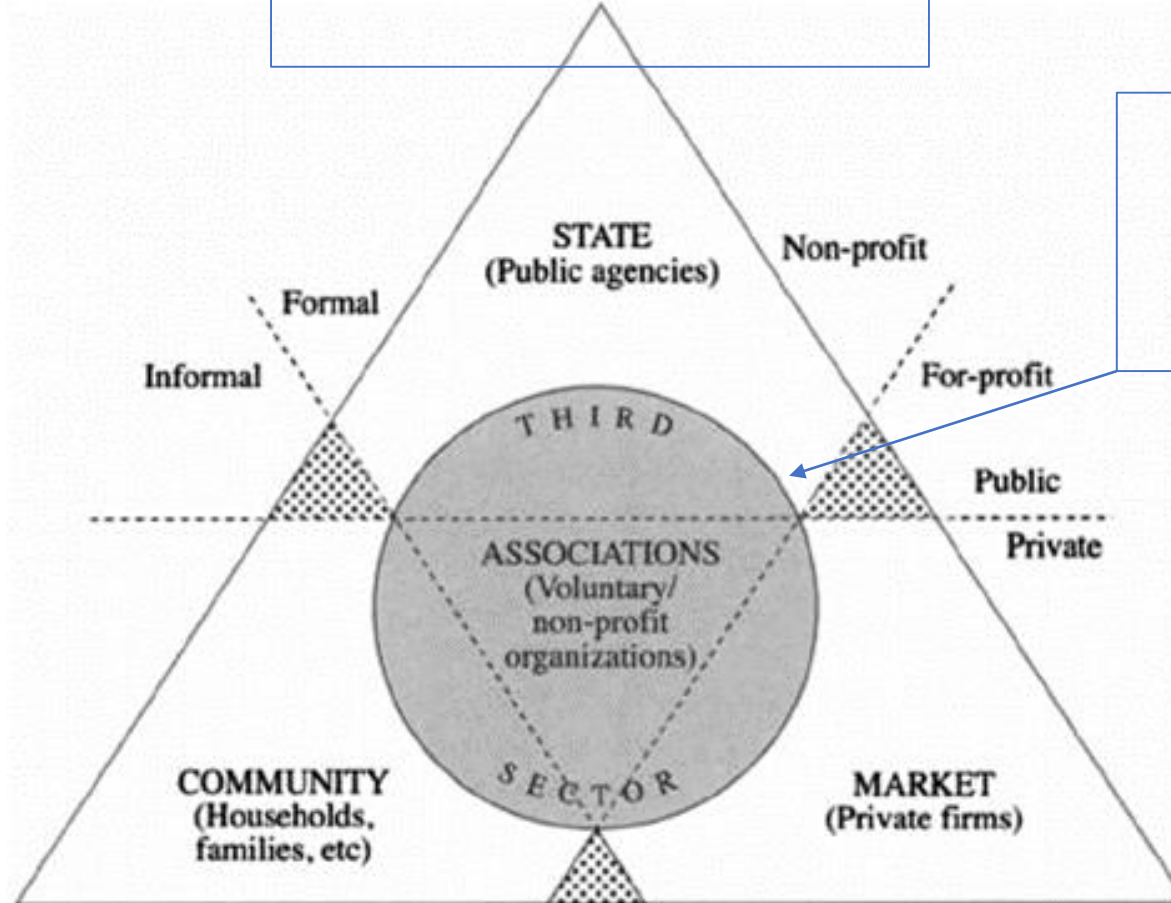
3つの経済過程

再分配(公)

コモンズ
(共)

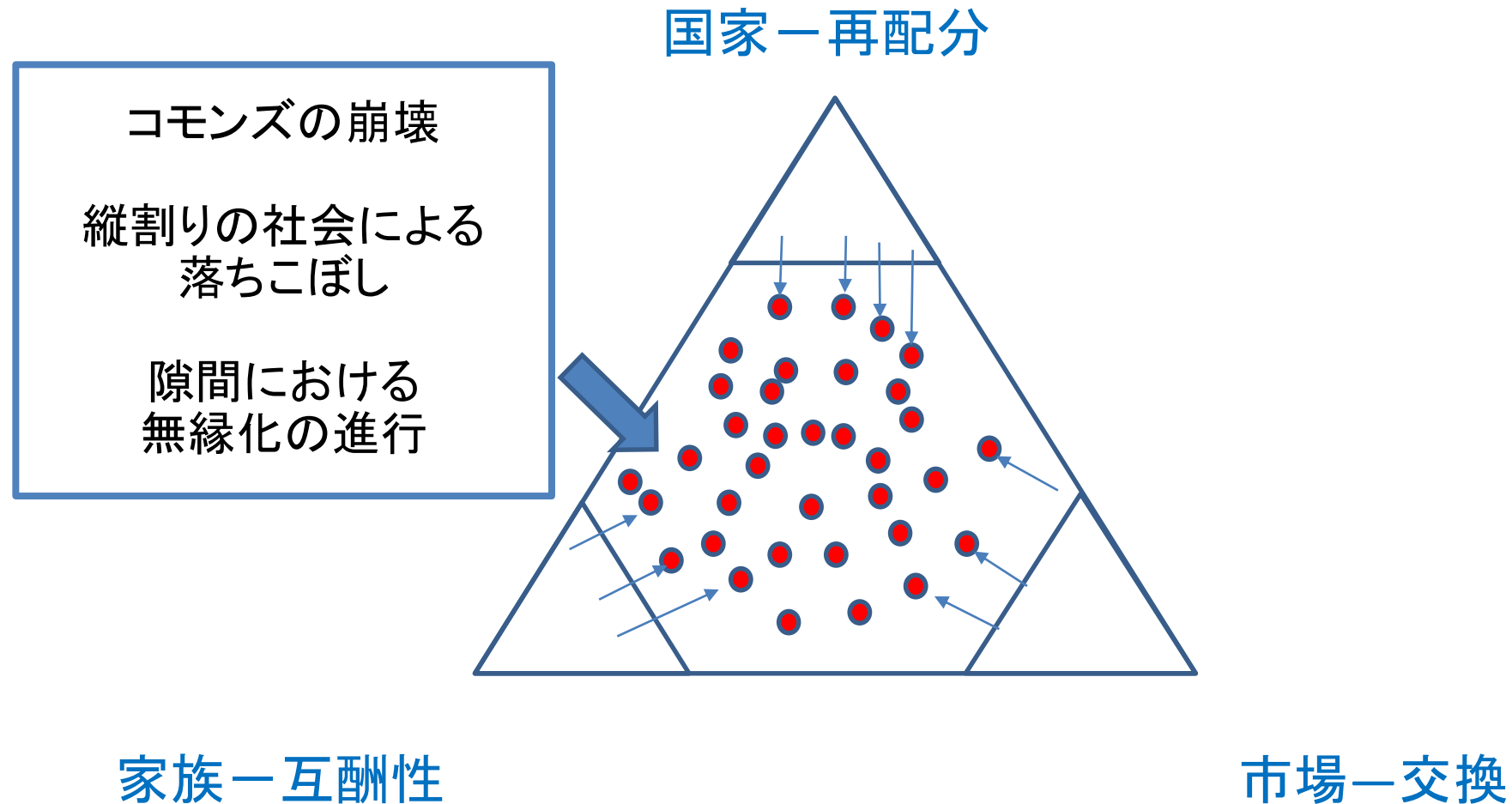
互酬(私)

交換(民)



ペストフの三角形

現状 国家、市場、家族の後退



コモンズの再生： コモニング

互酬性の原則の拡張による「共有」化

例 里山

里山は個人によっては管理できない
(コモンズの悲劇)

里山は共同体の一員(市民)によって管理しうる

コモニング

- コモニング (commoning) (Linebaugh, 2009) : コモンズに依る生き方を指す
- Ristau (2011)
- 「コモニングという行為は、お互いが助け合うという期待のもとで、何かが私たちみんなに属している(これが、コモンズの本質)という共通の理解をもって、かたちづくられている関係性のネットワークによって成り立っている。コモニングの実践は、「自分のことは自分で」という広く共有されている倫理から、「私たちはともにここにある」という倫理への思考の変遷を示している」
- 「この動きの中心には、自らが見たい世界を共に創造し生み出すために集まった人々がいる。私たちは自らの問題を解くために必要な作業を誰かがやってくれるのを待っている必要はない。より多くの人々が自分の住んでいる地域を見渡しては・・・「みんなで力を合わせれば、地元のこの問題は解決できると思う」と言い始める。」
- 「コモニングは、一般市民が、自分たちのコミュニティの未来をかたちづくるために、自ら決定し行動する新しい方法を示している。利益重視の市場原理に閉じ込められてしまったり、政府機関の資金に完全に従属してしまうこともない」
- 「コモニングは、市場経済において売り買いされるものだけが、私たちの暮らしに根本的な意味を与え生存を可能にする唯一の方法であると主張してくる、近代の暮らしを支配するパラダイムに対抗する一つの方法である」
- 「私たちが・・・社会的・経済的な暮らしをまじりあいながら組織化していくためのより本質的な方法を発見する際、私たちはコモニングというもっとも古い在りかたの一つに関与している」

静岡方式における
コモニング
互酬性の拡張

困りごとを
「萃点」にする

家政



市場

コモニングとしての就労支援

- 静岡方式は、相互扶助の市民社会というコモンズ(共の世界)を、私たちの地域が有していた、共同体のイメージを喚起しつつ、再創造する取り組み
- ペストフの三角形で言えば、左下の三角形を支える互酬性原理によって真ん中の領域を再組織化する試み
- 支援／被支援者モデルや提供者／顧客モデルによって、真ん中の隙間を埋めるのではなく、公共的空間として、私たちの地域社会を再構築する
- 顧客化を推進する福祉でもなく、労働者化を進める民間企業でもなく、相互扶助の地域社会自体が担い手となる
- 市場化の持つ排除の力を乗り越え、市民主体の地域をつくる

相互扶助社会の形成

- 福祉自体の市場化が進む現在、広く言えば、脱市場化の運動
- 貨幣は誰もが手に入れられるわけではない。人の弱さを前提とし、貨幣に基づく交換(民)ではなく、互酬(相互贈与)(共)で生きられる社会をつくることを目指す。
- 他者への依存関係から独立するという意味での就労「自立」概念を否定
- 就労は、個々人の自立のための手段ではなく、地域における相互扶助のネットワークに入り、支え合いの関係に入ることを意味する。「相互扶助のための就労、相互扶助による就労」
- ピラミッド型ではなくネットワーク型に、地域社会の再組織化を目指す
- 相互扶助の社会関係の再構築にとどまらず、相互扶助的な経済関係の再構築をも目指す
- 支援の生態系を基盤に、社会的連帯経済という経済の生態系を作り出していく。

私たちにとっての地域とは

私たちが構成する
私たちが主体である
私たちのための地域

community of us, by us, for us

市民社会の力で新自由主義を乗り越える

コモニングによって私化を乗り越える

就労支援の原則

- 1 働けると信じる
- 2 伴走する
- 3 地域を再組織化する

1 働けると信じる(IPS)

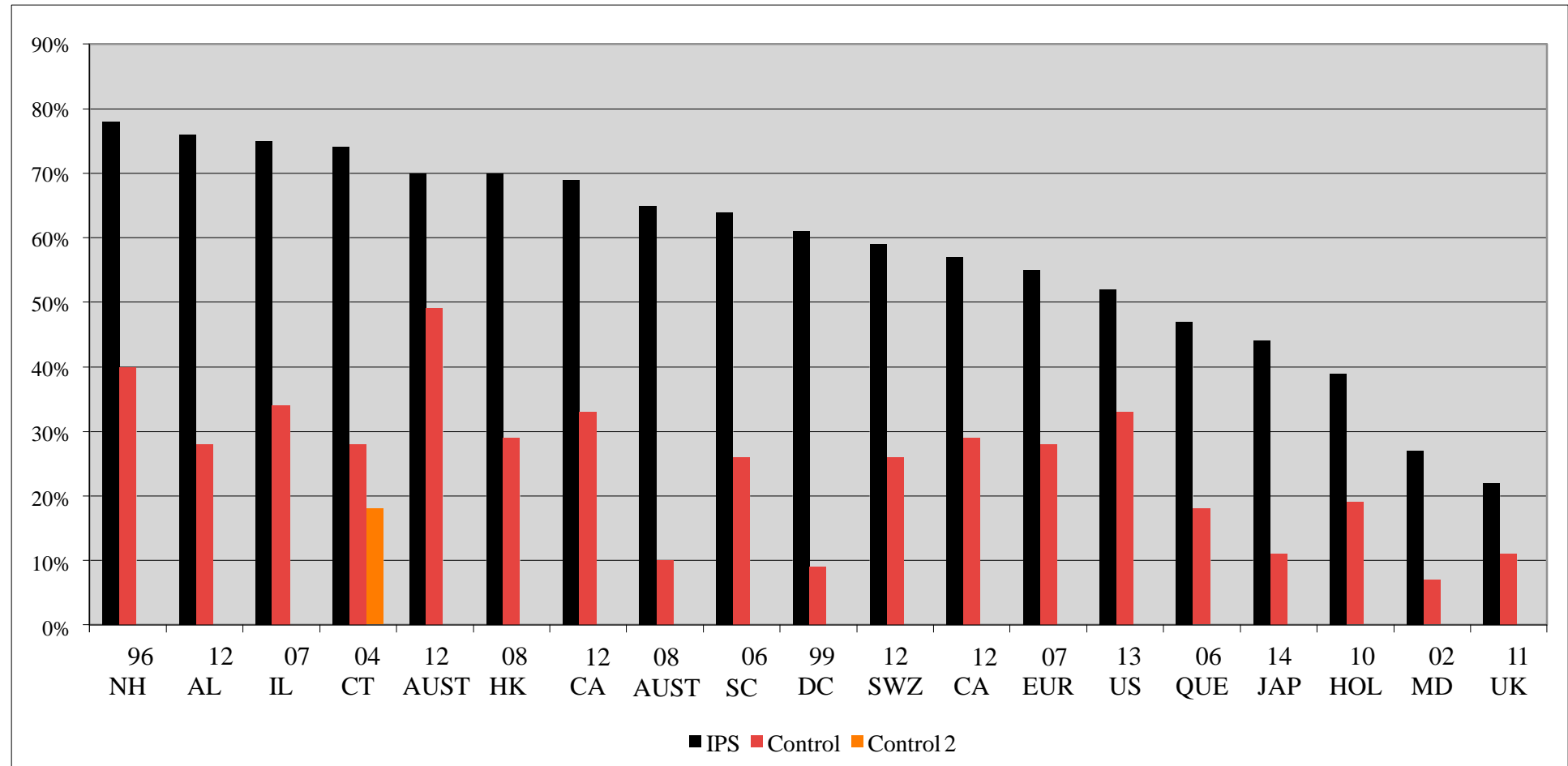
1. 一般雇用(最低賃金)を目指します
2. 働きたい人はどんな人でも支援します
3. 医療の支えを得ます
4. 本人の好みを尊重します
5. 訓練やカウンセリングではなく、ただちに職探しを始めます
6. 本人の好みに沿って、地域の職場を探します
7. 本人の望む限り、ずっと支援します

「好きなこと・好きなもの・好きな人」

IPSの効果

働けるという前提を持つことの価値

就労率



好きなこと・好きなもの・好きな人
をもとに提案してみましよう

2 伴走する



就労体験の様子をビデオで見ましょう

神奈川県に住む70代の会社の社長さんでもあります❀諦めないボランティアさんのお一人です♡ 一度会いに行った時に(^^)

、、、なんかあって大変だったらさ、うちに来なよ(^^) 別に人生長いんだし僕も昔家出してからここに居ずいちゃったんだ。気づいたら社長してた(^^)好きな仕事だなあって感じたんだよな～始め嫌だったけど❀

このお話がきっかけになり、まだ10代ですが、優しくって真面目な髪の毛セットが得意な若者くんが向かいました❀(^^)

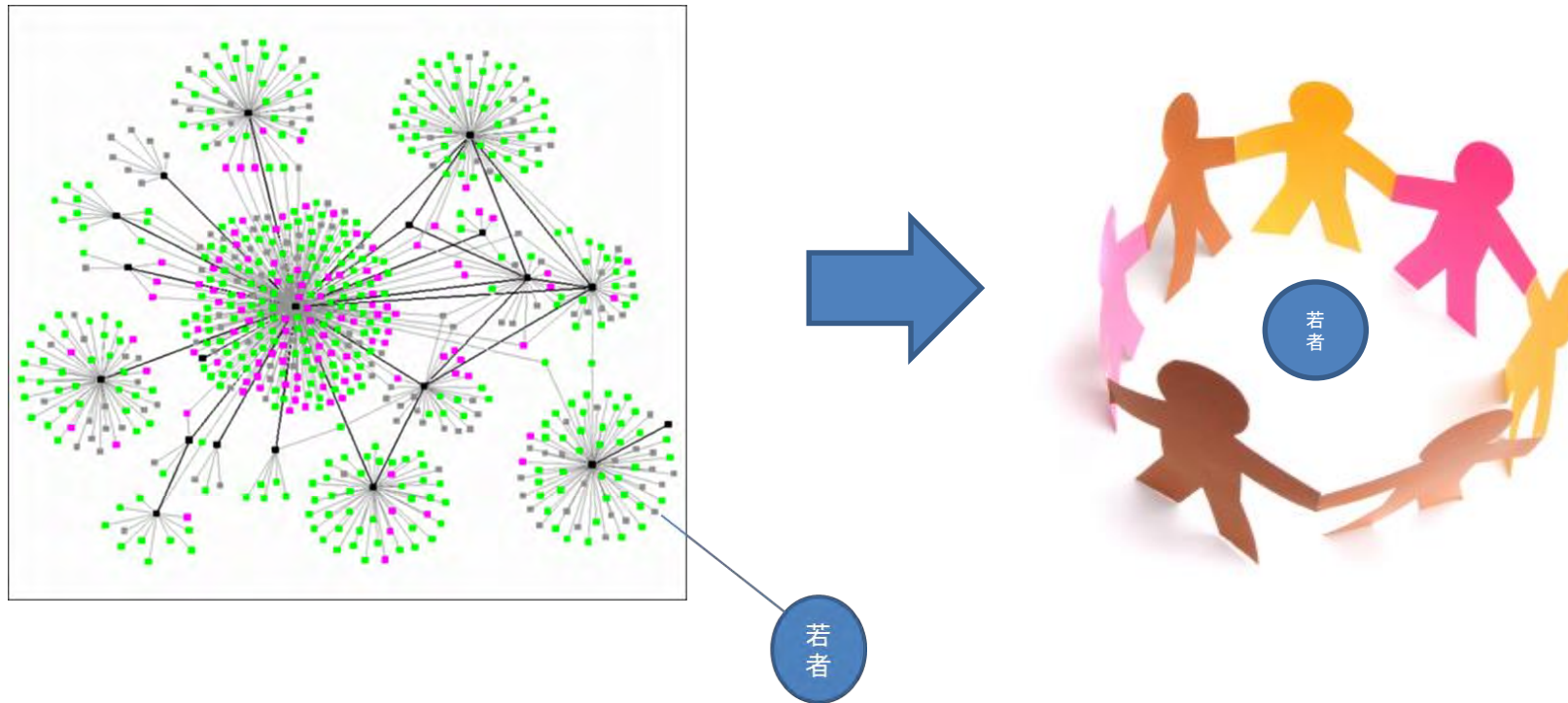
あれから1ヶ月です♡ ボランティアさんは最初に知り合いのお店に2人だけで伴走♡♡(^^) 2軒目でホテルマンやフロント等も目指せるように、周りのスタッフさんたちにも紹介をしてくれました。

毎日毎日早起き6時半ですがお迎え車もあり(^^)です。歯磨きしながらだって乗り込めます❀(^^) 少しずつ少しずつ周りの方より2時間短い時間からスタートされました。

助けの言葉や行動があるとがんばれちゃいます♡(^^)♡ 色々な方に囲まれたら浮かぶ事も考える事も変わるんだらうな(^^)

地域のたくさんさんの「いい人」に
どんどん出会っていきましょう

3 地域を再組織化する



萃点(すいてん)とは

【南方曼荼羅から】



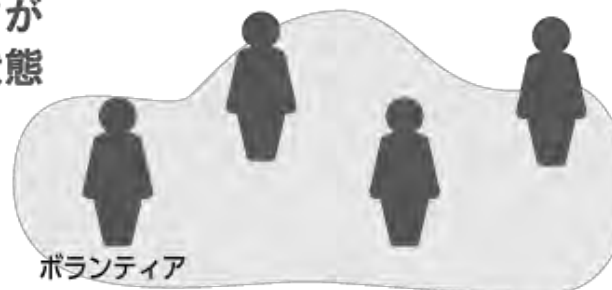
さまざまな因果系列、必然と偶然の交わりが一番多く通過する地点……そこから調べていくと、ものごとの筋道は分かりやすい。……そこですべての人々が出会う出会いの場、交差点みたいなもの……非常に異なるものがお互いにそこで交流することによって、あるいはぶつかることによって影響を与えあう場—それが萃点

(鶴見和子『南方熊楠・萃点の思想』藤原書店)

伴走で萃点をつくる

step
1

核となるボランティアが
数名しかいない初期状態



step
2

ボランティアは就労支援の伴走過程で、
協力者にボランティア登録をお願いします。



step
3

ボランティア登録者全員へメールリストを送付。
地域の困りごとを共有する土壌をつくる。



伴走で萃点をつくる

step

4

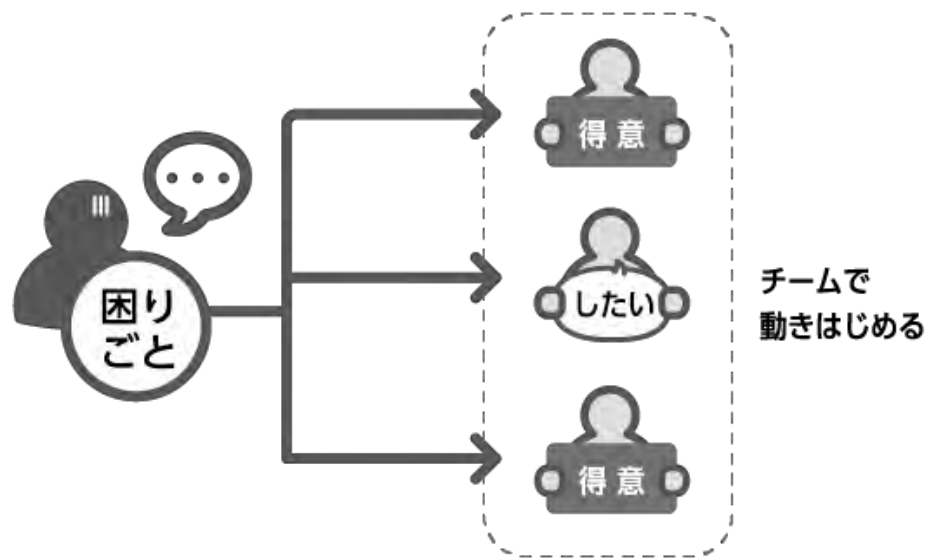
ボランティア登録者の得意なこと、やりたいことがわかるように、ボランティア登録者が集まる機会をたくさんつくる。



step

5

支援する人は「困りごと」に直面したときボランティア登録者の誰に頼めばよいかわかるようになり、「困りごと」を分かち合える。



萃点が自己増殖し、生態系となる



自分たちを成長する生き物として
イメージしましょう

人はどうしたら働けるのか

支援しない。応援する。

私たちは人を支えない
支えを外してしまえば落ちてしまう

本人の人生はあくまで、本人のもの
本人の人生を送るのを「応援」する
私たちは「応援団」

渡邊) 野球の応援団みたいに太鼓がいたり、チアリーダーがいたり、いろいろな人がプレーしている人を応援している。ジーっと見守る人もいるかもしれない。

池田) 私たちは「応援」と言っている。みんな応援できるし、応援してもらっていい。

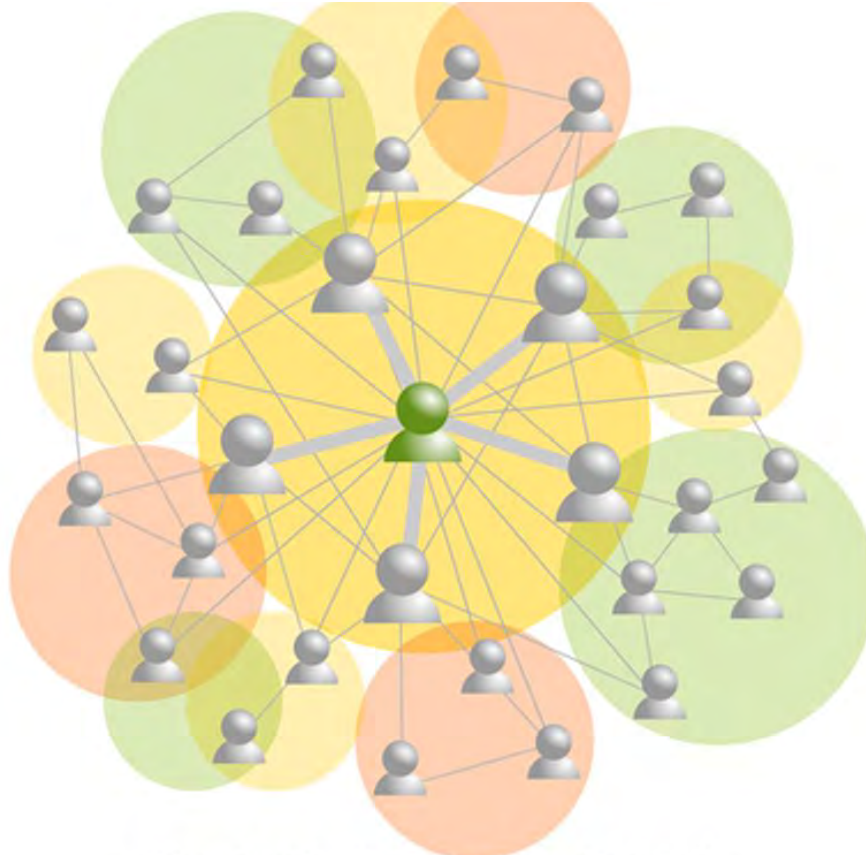
池田)意識しているのは3、4人つくようにしている。同じ地域の人、レアな趣味が繋がりそうな人、あと一人なんの共通項があるのという全然お門違いの人をいれる。たまたまそこにいたからみたいなのこともある。趣味の話だと盛り上がるからいい。ただ世の中には合わない人もいるので、お門違いの人は、その延長上だよということを分かってもらうことが一つ。そうは言っても色んなことがひっくり返ったりする。最初合わなさそうだなと思った人と仲良くなったり。コーディネートをしすぎて、守ろうとしすぎるあまりに外に出てから崩れてしまうパターンもある。いろんなハプニング的なものも楽しめるように、というのを最近考えている。

渡邊)・・・若者とサポーターは「寄ってたかって」の形式ができています。・・・富士の各地から窓口に集まり、そこからサポーターが若者を連れ出していく、そこから皆んなでドライブに行く、写真を撮りに行く、サイクリングに行くというみんなの集合場所になっている。教育プラザの中に体育館、調理室があり、私たちが窓口で事務作業をしていると敷地内の知らないところで会合が行われている。知らぬ間に若者とサポーターがシチューを作っていたり。サポーターの中には住職もいて、お寺に若者を集めてフォローアップミーティングを始めたり。・・・

ウィークタイズ(弱い紐帯)で化学反応を起こす



CONNECTIONS THROUGH STRONG TIES



CONNECTIONS THROUGH WEAK TIES



渡邊) 気がついたら巻き込まれてるっていう。マラソンもそうだし、うちの若者は15歳からなので不登校の子も来ているし、引きこもって慣れるために来てるって子もいるし、働きたくないけど親に何してるんだって言われるのが嫌で来てる子もいる。で、働きたい子に企業に見学行ってみようかっていう時に、他の子と一緒にドライブに行かないって誘うんですよ。するとうっかり次の日から働いてたりするんですよ(笑)なんか行って働く気になっちゃうってね。働きたいって言ってなかったよねって。その子が面接しちゃったりうっかり巻き込まれるんですよ。

池田) 巻き込まれて働いちゃった子に「なんか働いてるらしいじゃん」って言ったら「そんなつもりはなかったんですけど、、、なんかいつの間にか働いてたんですよ」って(笑)

おわりに

私たちは
お互いにサポーター—
地域づくりの仲間



補遺 有償スタッフのことば

出会った方々自身が抱える問題

仕事の探し方

支払

学歴

仕事が続かない

電話がけが苦手

恋愛・結婚したい

友達が欲しい

休日の過ごし方



交通手段

面接が怖い

比べられること

相談相手がない

家族との関係性

やりたい仕事がない

同僚の人間関係

病気との付き合い方

困っている人に出会う

- 図書館など比較的行きやすい場所（理髪店、ドラッグストア、スーパー、クリーニング店等）で広報
- 健康診断（出張含む）で広報
- 本人の安全安心な場所（ex. ひきこもり相談員と、お気に入りの場所にて）で会う
- 企業訪問で職場の見学や体験の依頼以外に従業員へ回覧をお願い（社内回覧をしてもらい、従業員やそのご家族に出会う）

サポーターさんと一緒に動く

- 「知らないことは、一緒に動いて知ればいい」
- サポーターさんの強みを生かして、頼ってみる
- 最初は、サポーターさんが自ら動けることは少ない。リズムや感覚があるとイメージしやすい。だから、折に触れて声をたくさんかけて、いっしょにやってみる。
- 大事なものは、拠点に来るサポーターさんではなく、地域のサポーターさん
- 市町規模の小グループのMLやLINEグループをつくる
- 困りごとを真ん中にして、相互につながる

どんな人がサポーター？

- いい人 職業や年齢、性別はさまざま
- ボランティア登録用紙を書いてもらう
 - 登録用紙には個人情報への守秘義務が生じる
- 連絡は、主にメーリングリストを利用
 - 内容は困りごと(相談)やイベントの発信
 - メーリングリストは見るだけでも良い
 - 自分が参加できそうなものに参加する
- できる時にできることを
- 直接、若者の担当をしてくれる方もいる
- 趣味や特技や専門性を発揮していただく方もいる
- 間接的に情報提供を行う方もいる

何をしているか



話を聴く

自分が落ち込んでいた時に、話を聴いてくれた人がいた。
日向ぼっこをしながら、ゆったりとした時間を一緒に過ごす。



フォローアップミーティング から始まる出会い・化学結合

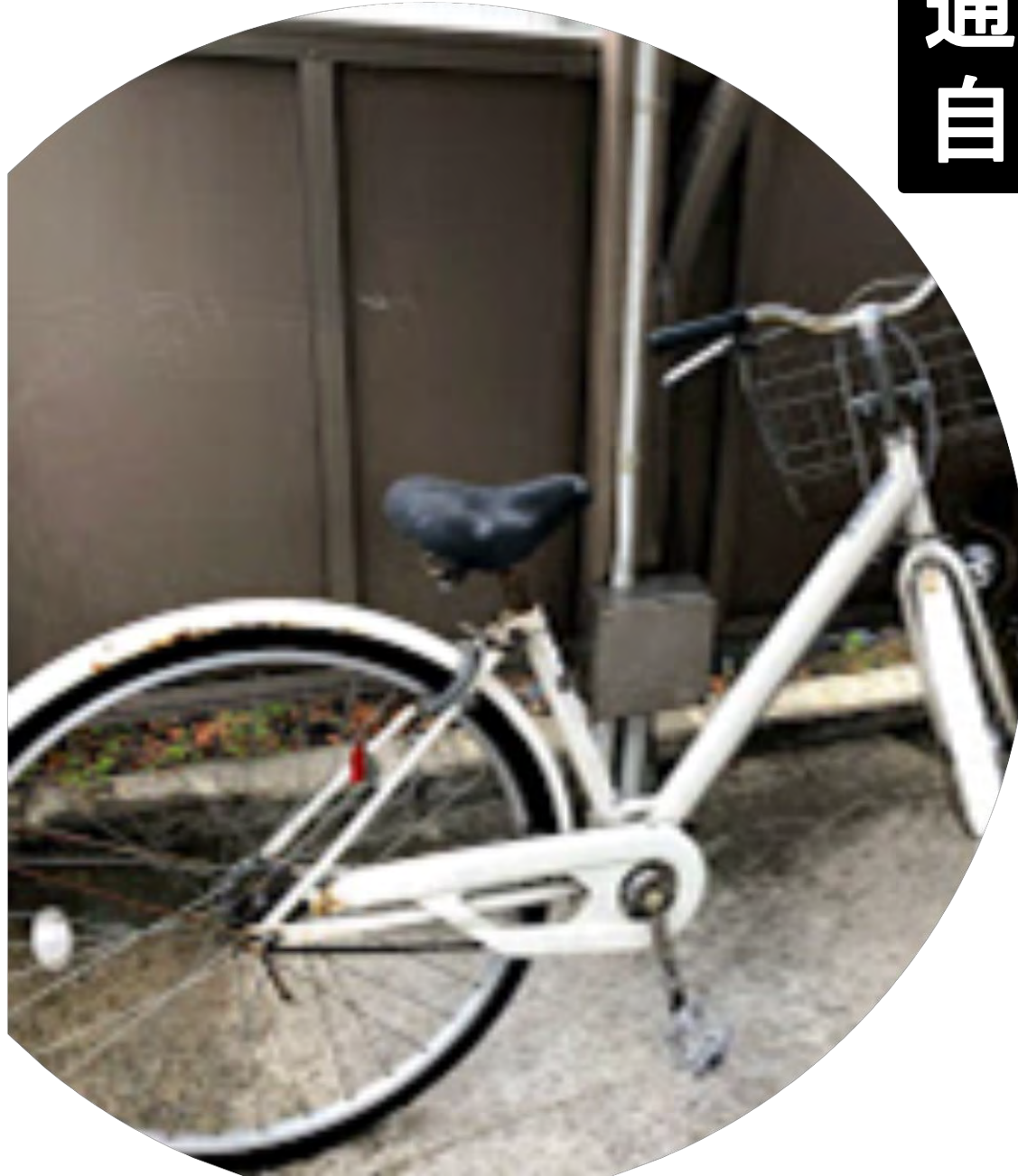
- 土曜日の午後に行ったFM
- どんな仕事ができるか悩んでいたUさんに、企業担当をしている市役所職員の方が「こんな会社見てみない？」と
その場で、ある工場に連絡を取って
くださいました。
- たまたま工場長がいたので、サポーターさんと3名ですぐに工場へ直行！！
- お互いに気に入って、後日面接をして採用となりました

職場訪問（働き続けることの応援）



- 働き始めるとなかなか連絡が取れなくなることもあるけれど、地域のサポーターさんなら、働いているところに様子も見に行ける。もしかしたらお客さんとして応援してくれることも。

通勤困難な若者に 自転車を譲り受ける



- 就職は何とか決まりそう。
- 車の免許もないし、バスでの通勤もダイヤが少ないし、お給料が入るまで、バス代の立て替えもちょっと厳しいし、家族の協力も難しい…
- そんなときにサポーターさんがメーリングリストを見たからと言って、使っていた自転車を譲り受けました。



趣味やリフレッシュ等の開拓

真面目な方たちが多いので、仕事の時間以外の過ごし方について、紹介や共有をしながらメリハリのある生活をする事、また地域で一緒に生活する仲間として繋がりあうこと



地域活動へ一緒に参加

地域で生活する者として、自治会や消防団、漁協組合、教育委員会等のボランティア活動で地域を知る。

その他やっていること

- ・学び直しを支援する
- ・食事に行く
- ・畑を一緒にやる
- ・スポーツを一緒に行う
- ・カラオケに行く
- ・コーラス部を結成
- ・ラフターヨガに参加する
- ・釣りに行く
- ・映画に行く
- ・貯金節約の仕方の研究
- ・起業の応援
- ・市役所等の窓口の伴走
- ・会社の求人情報提供
- ・制度や法律の改正の説明
- ・身だしなみを整える
- ・男のモテ講座
- ・マラソン
- ・カメラ部
- ・一人暮らしの準備
- ・引越し
- ・クラフトの会
- ・歴史の研究
- ・保護者との相談
- ・食材や料理の
おすそ分け
- ・就労体験の受入れ
- ・ウォーキング
- ・ダイエット

サポーターを始めてみると

- 始める前

「就労支援をしたことなんてないから」

「ボランティアと言ってもお役に立てるのかな」

「専門性が必要だと思っていた」

- 始めてみて

「たいした事はしていないのに感謝された」

「これならできそうな事はあるかもしれない」